

町立奥出雲病院経営強化プラン

(令和 5 年度～令和 9 年度)

点検・評価

～令和 5 年度～

町立奥出雲病院

令和 6 年 7 月

内容

1.	はじめに	2
2.	点検・評価	2
1)	決算状況(見込み) (別紙1)	2
2)	経営状況および医療機能・医療の質に関する評価と目標値評価(別紙2)	3
3)	項目別評価(項目別評価一覧表) (別紙3)	3
3.	今後に向けての課題と対策	3

1. はじめに

令和4年3月に当面の5年間の経営強化計画として、「町立奥出雲病院経営強化プラン(令和5年度～令和9年度)」を策定し、健全経営の実現に向けて取組みを進めているところです。この度は、プラン初年度となる令和5年度について、以下のとおり点検・評価を行いましたので、報告いたします。

なお、事業決算については9月議会で認定を受け確定となるため、見込みにて評価を行っております。

2. 点検・評価

1) 決算状況(見込み) (別紙1)

(1) 収益的収支について

町立奥出雲病院事業会計の令和5年度決算額(税込)は、43,792千円の純損失となる見込みです。令和4年度は新型コロナウイルス関連補助金の受領に加え、病院単独での経常黒字化も達成しましたが、一転して大幅な損失となりました。

医業収益は、1,761,743千円となりました。料金収入は前年度に比べ、患者数減(病床稼働率低下)となったものの、入院・外来ともに1日診療単価が向上し、ほぼ計画どおりとなりました。その他の収益(保健予防活動収益等)が計画に未達となったことで、医業収益は計画比で96.7%の到達となりました。

医業外収益は、525,373千円で、一般会計負担金や長期前受金戻入(収益化)が主であるため、ほぼ計画どおりの99.0%でした。

よって、経常収益は、2,287,116千円となり、97.2%の到達でした。

一方、医業費用は、2,285,748千円で、103.4%で超過となりました。患者治療に用いる高額な薬品使用が定期化したことにより、材料費が37.2%の増加となったこと、経費(修繕費・委託料等)が4.5%の増加となったことが要因でした。

医業外費用は、45,159千円で74.9%となりました。支払消費税が前年度より減となったことが主要因でした。

よって経常費用は、2,330,907千円で102.7%となり、計画超過となったことで、43,792千円の純損失となる見込みです。

(2) 財務状況について

令和 5 年度の流動資産(現預金および未収金等)について、令和 4 年度末時点で 468,460 千円であったものが、389,851 千円の 16.8%減となりました。このうち、50,000 千円は一時借入金であり、危機的な資金不足の状況となっています。

資金的収支において、335,489 千円の収入に対し、支出は 471,683 千円でした。その差額の 136,194 千円を自己資金での補填が必要ですが、(1)で記載したように十分に利益を上げることができなかったことと、病院建設時を含めた過去の企業債償還額が多いことにより、大きな資金流出となりました。

3 億円を超える企業債の償還は、令和 10 年度まで続くため、それまでにいかに安定的な黒字経営への転換を実現できるかが大きな課題となっています。

2) 経営状況および医療機能・医療の質に関する評価と目標値評価(別紙2)

3) 項目別評価(項目別評価一覧表) (別紙3)

3. 今後に向けての課題と対策

持続可能な地域医療提供体制を確保するための直近の課題は、資金確保にあります。キャッシュフローで「事業活動により得られるキャッシュ」をより多くすることが急務であり、収入・支出両面の課題整理とそれらへの対策を講じ、収支バランスの大幅な改善を得ることが必要です。

令和 6 年度には診療報酬改定もあり、病院機能の最適化を図りながら、安定的な経常黒字化を実現するための経営と管理を徹底していきます。

また長期的な投資計画について、施設の老朽化が進み、修繕や更新を要する部分が多く出てきています。その中において、中長期的な視点で検討し、病院建設時の企業債償還最終年度となる令和 10 年度までの借入と償還のバランスをみながら計画していく必要があります。

医療機能や医療の質の目標値で財務の視点を除く部分については、約4割が達成、6割が未達となりました。特に医療の質に関する項目や広報、地域連携、在宅医療に関する項目が未達となっており、今後取り組みを振り返り、さらなる活動を強化していきます。